
東北大学陸上競技部

OB 通信

2011 年 No.4 (2011.11)

天皇賜杯第 80 回日本学生陸上競技対抗選手権大会

- ・柳沢邦彦(3) が男子円盤投、及川まりや(3)が女子 5000m に出場

北海道大学対東北大学定期戦

- ・男子 11 連勝、通算成績 42 勝 29 敗 1 分

国公立 22 大学対校 陸上競技大会

- ・男子総合 3 位、トラック総合 4 位、フィールド総合 3 位
- ・柳沢邦彦(3) が男子円盤投で大会記録樹立の 3 連覇、最優秀選手に選ばれる
- ・杉本和志(4) がやり投げで 3 連覇

第 23 回出雲全日本大学選抜駅伝競走

- ・深渡慎一郎(2) が東北学連選抜チームとして 5 区に出場

第 29 回全日本女子大学駅伝対校選手権大会

- ・及川まりや(3)、鈴木絢子(1) が東北学連選抜チームとしてそれぞれ 1 区、2 区に出場
-

・秋季三秀総会日程のお知らせ

・ 第 33 回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2 ページ
・ 天皇賜杯第 80 回日本学生陸上競技対校選手権大会	2 ページ
・ 北海道大学対東北大学定期戦	3~7 ページ
・ 国公立 22 大学対校 陸上競技大会	8~14 ページ
・ 第 39 回東北学生陸上競技選手権大会	15~17 ページ
・ OB 対現役対抗戦	18~25 ページ
・ 第 23 回出雲全日本大学選抜駅伝競走	26~27 ページ
・ 第 29 回全日本女子大学駅伝対校選手権大会	27~29 ページ
・ 自己記録更新者一覧	29 ページ
・ 秋季三秀総会のお知らせ	30 ページ
・ 今後の予定	30 ページ
・ 編集後記	30 ページ

向寒の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、主に第 72 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第 24 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果と第 26 回国公立二十二大学対抗陸上競技大会の結果をお伝えします。

第 33 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(6/12~13) 於 新潟市営陸上競技場

6月12から13日に新潟市営陸上競技場で北日本学生陸上競技対校選手権大会が行われました。一部の部員のみのお出場となりましたが、男子 400m で高林(4)が 3 位入賞を果たしました。記録の一部を紹介します。

	順位	氏名(学年)	記録
男子 400m	3 位	高林 佑輔(4)	50"03
男子三段跳	6 位	大村 祐大(M1)	14m37(+2.8)
男子やり投	5 位	杉本 和志(4)	57m82

天皇賜杯第 80 回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/11~13)

於 熊本県民総合運動公園陸上競技場

柳沢邦彦(3)、及川まりやがそれぞれ男子円盤投、女子 5000m の全カレ B 標準 44m00、16'35"を超え、出場しました。また、期待のルーキー千葉優人(1)も、出場はかないませんでしたが、男子 400mH への参加資格を獲得しておりました。

出場選手の感想は今年度の三秀に掲載予定ですので、ご覧ください。

	順位	氏名(学年)	記録
男子 400mH		千葉 優人(1)	DNS
男子円盤投	21 位	柳澤 邦彦(3)	43m68
女子 5000m	21 位	及川 まりや(3)	16"52"64

北海道大学対東北大学陸上競技定期戦(9/3) 於 小樽市手宮公園陸上競技場

今年には震災の影響で当初の予定とは異なり、9月に北海道の小樽で開催されました。台風が接近しており天候には恵まれず、一時試合が中断するというハプニングもありましたが、無事終えることができました。男子は11連勝。女子は惜しくも敗れましたが奮闘しました。

トラック

男子 100m

- 1位 伊藤 亮輔(3) 11"12(+2.1)
5位 小林 大亮(1) 11"26
6位 鈴木 貴幸(M1) 11"55

スタートは全体的に良い反応をみせた。

伊藤は中盤以降から順調に加速し、2位でフィニッシュ。

小林は中盤まではトップを走る素晴らしい走りを見せ、その後越されるも粘り4位。

鈴木はキレのある加速をみせるも挽回かなわず5位。

女子 100m

- 2位 中山 なつみ(2) 13"49(+0.1)
5位 千葉 愛里沙(1) 14"01
6位 金子 奈緒(1) 14"41

スタートはいずれもまずまず。

中山は中盤からの加速が素晴らしく、前との差をみるみるつめたが惜しくも届かず2位でフィニッシュ。

千葉、金子は挽回叶わず5、6位となった。

男子 200m

- 4位 吉羽 正太(1) 23"44(+2.1)
5位 高橋 純(3) 24"22
6位 伊藤 亮輔(3) 25"67

吉羽、高橋とも粘りのある走りを見せ健闘したが、4位、5位に終わった。

伊藤は前の競技で脚を痛めた状態での出場となり、6着という苦しいレースとなった。

男子 400m

- 2位 田中 裕志(M2) 50"88

- 5位 南 共哉(2) 52"36

- 6位 高橋 純(3) 55"07

田中は力みすぎない良いスタートから、バックストレートの向かい風に対し、リズムの良い走りで後半につなぐ。後半の粘りのある走りで前の北大に追いつき、2位でフィニッシュ。

南は前半から積極的なレースをみせたが、5位に終わった。

高橋は序盤から置いていかれ、何とか挽回しようと走るも6位。

女子 400m

- 1位 千葉 愛里沙(1) 68"87

千葉は前の選手に序盤から離される苦しい展開となり、ラストは追い上げたが、差を埋めるには至らず4位でフィニッシュ。

男子 800m

- 2位 大野 良輔(3) 1'58"00

- 3位 辻川 優祐(3) 1'58"48

- 4位 金子 修平(2) 2'00"15

序盤は金子が北大を圧倒し、積極的に前に出る。辻川、大野がそれに続く。ラスト200mで辻川が前に。辻川、大野、北大の選手の3者による接戦となったが、大野は惜しくも2位、辻川、金子がそれに続いた。

女子 800m

- 2位 鈴木 絢子(1) 2'26"86

- 5位 小高 真衣(3) 2'45"56

スタートから鈴木は先頭の後ろにつき好位置でレースを進めた。300m付近で先頭に出るも、ラスト300mで逆転され2位に。食らいつくも、そのまま2位でフィニッシュ

ユ。小高は序盤から後方についてしまい、最後には果敢なスパートをみせたが一息及ばず5位に終わった。

男子 1500m

- 1位 三上 和樹(2) 4'10"51
- 2位 辻川 優祐(3) 4'12"55
- 3位 藤澤 萌人(2) 4'13"51

スタート直後から6人が固まり、スローペースとなった。北大の選手が先頭を引っ張り、2周目を2'16で通過。ここでややペースがあがり、藤澤が集団の前方へ。ラスト1周で先頭に立ち、東北大の3人が一気に集団を抜け出す。その後は北大3人を大きく引き離し、東北大同士の勝負となった。ラスト100mで抜け出した三上が1位、辻川、藤澤が2、3位と続き、見事ワンツースリーを決めた。

女子 3000m

- 1位 鈴木 絢子(1) 10'25"73
- 5位 小高 真衣(3) 11'38"29
- 6位 鈴木 はるか(3) 12'01"41

スタート直後から2人と4人の集団に分かれた。鈴木(絢)は北大の1人とともに先頭で走り、1600mからは2位を大きく引き離し、独走体制に。ラスト1000mは見事なスパートで1位でフィニッシュした。小高は3位集団に2000m付近で離され、5位。鈴木(は)は終始後方につけ、前との差を埋めきれないまま6位に終わった。

男子 5000m

- 1位 深渡 慎一郎(2) 15'34"79
- 2位 山本 悠平(2) 15'41"79
- 4位 石代 剛之(3) 15'48"41

スタート後、石代は先頭につき、深渡、山本は落ち着いたペースでレースを進めた。石代は1000mを3'00で通過し、先頭に出るも、その後ペースが落ち始める。2000m

手前で4位集団が先頭集団に追いつき、集団は6人に。その後、北大の選手が抜け出して5人の2位集団となったが、深渡は3400mで先頭をとらえ、終盤さらにペースをあげて1位でゴール。山本は4000m手前で3位集団を抜け出し単独で3位になり、ラスト500mでも1人かわし、そのまま2位でゴール。石代は3000m手前で遅れ始め、苦しい走りとなったが、粘りの走りで4位を死守した。

男子 110mH

- 1位 渋谷 知暉(3) 15"35(+1.5)
- 2位 岩崎 辰哉(M1) 15"46
- 4位 向出 周太(2) 16"08

渋谷、岩崎両選手は1台目から先頭争いを繰り広げた。徐々に後続との差を広げながら、ほぼ同時に10台目を越える。その後、渋谷がスプリント力でわずかに差をつけ、1着でフィニッシュ。岩崎がすぐ後に2着で続いた。

向出は序盤こそわずかに出遅れたが、中盤以降は少し前の北大の選手を追い上げた。しかし、わずかに及ばず、そのまま4着でフィニッシュ。

男子 400mH

- 2位 田中 裕志(M2) 57"48
- 4位 渋谷 知暉(3) 59"42
- 5位 向出 周太(2) 61"03

前半から渋谷が安定感のある走りで先頭に。一方、田中は前半自分のペースを守った走りで少し離されるが、後半からの伸びが凄まじく、前を走る渋谷との距離を徐々に詰めていく。最終ハードルを越えた時点で渋谷を逆転。1位でフィニッシュした。渋谷はすぐ後に2位で続いた。

向出は序盤からの積極的な走りを見せたが、前には届かず4位に終わった。

男子 3000mSC

- 1位 尾形 翔平(3) 9'49"15
2位 菅野 均(3) 10'00"62
3位 森部 峻介(3) 10'06"83

スタート後集団は6人全員で形成され、1000mを3'13で通過。その後、尾形、菅野の2選手が先頭でレースを進め、そのやや後ろに森部がつける。尾形は2000m手前で菅野を離し、さらにスパートをかけて1位でゴール。菅野は尾形には離されたものの、後半粘り2位でフィニッシュ。森部はレース途中で転倒するというアクシデントもあったが、3位を死守した。

男子 4×100mR

2位 43"57

岡崎(2)-鈴木(M1)-南(2)-小林(1)

岡崎は鋭いスタートをみせ、北大に差をつけて2走の鈴木へ。鈴木は持ち前の大きなストライドで善戦。3走の南は後半の伸びのある走りをみせ、バトンはアンカーへ。アンカーの小林は前半からスピード感のある走りで前の北大を追ったが、及ばず2着でフィニッシュ。

女子 4×100mR

2位 54"67

安部(1)-中山(2)-千葉(1)-金子(1)

1走安部は良い飛び出しをみせたが北大に差をつけられてしまう。2走の中山はエース区間らしい素晴らしい走りでその差を徐々に縮め、勢いそのままに3走へ。3走の千葉は滑らかな加速をみせたが前の北大には届かない。アンカーの金子も差を広げられてしまい、挽回かなわず2着に終わった。

男子 4×400mR

2位 3'30"14

南(2)-岡崎(2)-高橋(3)-安井(3)

1走の南はリアクションこそやや遅れたが、前半から積極的なレースを展開。北大に多少先行されたものの、最小限の差でバトンをつなぐ。2走の岡崎はバトンを受け取ると爆発的な加速をみせ200m手前で北大に並んだ、接触してはじかれてしまい、少し離れた位置で3走に。バトンパスでもたき、ここでも差を広げられた。3走高橋は慌てずに自分のペースを貫いたが、前との差は着実に広がる。4走の安井は直前の選手変更などのトラブルがあり、コンディショニングが難しかったかと思われたが、最後まで必死に走りぬき2着でフィニッシュした。

フィールド

男子走高跳

- 1位 山田 健太郎(1) 1m90
5位 奥 裕之(2) 1m75
岡部 大輝(1) DNS

山田は1m80から挑戦。記録を伸ばして1m90までは成功するも、助走が安定せず1m95を越えることができなかった。

奥は1m65からの挑戦。1m65ははさみ跳びで順調に越えるが、1m70で一度失敗。背面跳びに切り替えて成功。1m75も越えたが、1m80を越えることができなかった。

女子走高跳

- 2位 安部 瑛里奈(1) 1m45
3位 星 麻沙美(2) 1m35

悪天候の影響もあり、安部はいつもの流れるような跳躍が安定しない。七大戦でみせたような跳躍はできなかったが、最終的には1m45の2位で競技を終了した。

星は跳躍の頂点が合わず苦しい競技となった。しかしそれでも1m35を飛び、3位入賞を果たした。

男子棒高跳

- 1位 高橋 理寛(3) 4m20
3位 藤井 翼(3) 3m30
佐藤 裕貴(2) NM

高橋は、七大戦で1位争いをした北大の若松が早々に記録を残せず敗退したため、完全一人になってからの競技開始となった。4m20では雨風をものともせず軽々と越えたが、天候が余りにも悪くなったためここで優勝を決め、競技を終了した。

藤井にとっては、東北インカレに続き雨と風が少し強い中での競技となった。今回も天候に苦しめられ、思うような突っ込みができない。3m30をかろうじてクリアし、3m50では徐々に突っ込みが良くなるも、惜しくもクリアはならなかった。

佐藤は助走が合わず、なかなか跳躍につなげられない。助走が合って高さの出る跳躍はあったが、頂点が合わずバーを落とした。記録なしに終わる悔しい結果となった。

男子走幅跳

- 4位 田中 悠貴(2) 6m18(0.0)
5位 安井 令(3) 6m08(0.0)
6位 藤井 翼(3) 5m86(-0.4)

田中はリズムの良い助走からの鋭い踏み切りを見せる。しかしスピード感ともう一伸びが欲しいところ。北大勢の牙城を崩すことができず4位に終わった。

安井は怪我からの復活を期すが、踏み切り直前に減速してしまい、踏み切りも力強さがもう一つ。今後の復調に期待したい。

藤井は腰の痛みには耐えながらの試技で、思うような跳躍ができなかった。この後も22大戦など大きな試合が続くので心配なところ。慎重に回復させてほしい。

女子走幅跳

- 3位 中山 なつみ(2) 4m69(0.0)

- 5位 金子 奈緒(1) 4m55(+0.3)

- 6位 星 麻沙美(2) 4m34(0.0)

中山は持ち前のスピードを生かした勢いのある跳躍をみせ、辛くも北大のワンツースリーを防ぎ、3位入賞。

金子は助走のリズム自体は良かったものの最後で減速してしまい、踏み切りにうまくつなげられない。星は力強い踏み切りであったが助走にもう少し勢いが欲しいところ。ともに奮闘したが5位、6位に終わった。

男子三段跳

- 1位 岡崎 和貴(2) 13m55(-1.3)
3位 岡部 大輝(1) 13m13(-4.0)
4位 田中 悠貴(2) 12m90(-0.2)

岡崎は中助走からの1跳目で確実に13m55の記録を残すと、その後の競技はパス。この記録で見事1位をきめた。

岡部は大学初の三段跳。強い向かい風にも苦しんだが、13m台を跳び、2位。

田中はステップでつぶれてしまい、もうひと伸びが出ず、13m台に乗せることはできなかった。しかし、3位入賞を果たし、東北大勢でワンツースリーをきめた。

男子砲丸投

- 1位 柳澤 邦彦(3) 10m90
4位 藤井 翼(3) 9m28
5位 酒井 利晃(1) 8m74

流石の柳澤も、悪天候に苦戦したか。3投目まで投げにスピード感が無く、砲丸が伸びない。しかし4投目ではしっかり力を伝えて10m90で他を引き離し、優勝した。

藤井は投擲の際に上体が先行して少し開いてしまい、もう一伸びが出ない。グライドも安定せず、結局改善せぬまま4位で競技を終え、悔しい結果となった。

酒井は全体的にスピードに乗れておらず、突き出しが中途半端になっていた。最後の2

投は突き出しを意識し、雨に負けない強い投げができていたが、もう少しスピードが欲しいところ。課題は多いが、まだまだ伸び代があり、今後に期待できる。

女子砲丸投

- 2位 安部 瑛里奈(1) 6m63
- 5位 星 麻沙美(2) 6m07
- 6位 房内 まどか(3) 5m07

阿部はグライドが安定せず、バランスが崩れていた。しかし体の使い方は上手く、グライドのリズムが掴めればまだまだ伸びるだろう。

星はグライドから投げに至るまでの流れが良く、体重移動はうまくできていた。突き出しが少し弱かったが、後半少しずつ改善された。混成の種目であるので、今回の反省を生かして次につなげて欲しい。

房内は上半身が先行し、下半身があまり使えていなかったのが課題か。投擲自体は思い切りがよかった。

男子円盤投

- 1位 柳澤 邦彦(3) 41m57
- 2位 石川 遼(1) 30m09
- 5位 藤井 翼(3) 28m10

柳澤は雨に負けない強い投げを見せる。ターンが少し不安定になり左右に逸れることはあったが、40m 越えの投げを連発。2位の石川に10m以上の差をつけて圧巻の優勝となった。

石川はターンからリリースの流れが上手くいかず左に逸れる投げが多かったが、後半は修正して持ち味の躍動感溢れる投擲で30m09を投げ、2位で競技を終了した。

藤井はターンで下半身をうまく使えず、円盤にしっかりと力が伝えることができない。最後まで良い流れでターンから投げに繋ぐことができず、途中からは試技をパス。

5位に終わった。

男子ハンマー投

- 2位 八柳 暁(3) 31m23
- 3位 柳澤 邦彦(3) 30m03
- 6位 山崎 大志(2) 22m16

八柳は前半、リリースのタイミングのズレからか左に逸れる投げが続く。しかし4投目で改善し、5投目で30mを越えると最終投擲でも記録を伸ばし、31m23の自己ベストで2位となった。

柳澤はターンのズレにより前半思うような投げができない。後半はターンが安定はしてきたが持ち前のパワーをうまく伝えられず、30m03で3位に終わり、七大で記録した自己ベストに及ばず悔しい結果となった。

山崎は腰の怪我の影響もあり、ターンでスムーズに加速できず思うような投げができなかった。シーズンはまだ終わってはいないが、焦らずに怪我を治してPCとして引っ張って欲しい。

男子やり投

- 1位 杉本 和志(4) 56m78
- 2位 伊藤 泰彬(1) 55m77
- 4位 高橋 航(2) 47m11

杉本は2投目で56m78を投げトップに立つと、そのまま他を寄せ付けず貫禄の優勝。ただし風雨が強くなってからは思うような投擲ができていなかった。

伊藤は一本目に55m77を投げトップに立つ。しかしその後は雨のせいもあってか槍にうまく力を伝えられず記録が伸ばせない。最終的に杉本に抜かれ2位に終わった。

高橋は安定した投げを続けた。助走のリズムややりの軌道は良かったものの、投げの直前で減速しており力強さに欠けていた。思うような投擲ができず、4位に終わった。

#国公立 22 大学対校 陸上競技大会(9/17-19) 於 古河市広域中央運動公園陸上競技場

茨城大学主催の下で行われました。9月とは思えないような暖かい気温の中、今年も昨年に引き続き多くの選手が入賞し、大活躍しました。そして、男子総合3位、トラック総合4位、フィールド総合3位に入賞しました。男子円盤投では柳澤(3)が45m68の大会記録を樹立して3連覇、男子やり投げでは杉本(4)が3連覇を果たしました。

トラック

男子 100m 予選

- 5組 6位 青柳 光裕(D2) 11"67(+0.3)
6組 6位 伊藤 亮輔(3) 11"94(-1.4)
7組 3位 鈴木 貴幸(M1) 11"63(-2.8)

青柳のレースでは、一度フライングがあり仕切り直しとなった。その影響もあってか、多少遅れ気味のスタートとなった。中盤以降懸命に粘るも、6着に終わった。

伊藤は良い飛び出しでスタートしたが、脚に不安を抱えており、いまいち伸びきれないままに6着に終わった。

鈴木は素晴らしいスタートをみせ、中盤以降も懸命に食らいついたが、抜け出すことができずに3着でフィニッシュ。

男子 200m 予選

- 1組 3位 吉羽 正太(1) 23"68(-3.0)
5組 5位 青柳 光裕(D2) 24"11(-2.2)
6組 6位 伊藤 亮輔(3) 23"47(-2.0)

吉羽はスタートはまずまず。序盤から軽快なピッチで走り、コーナーを出たあたりで3番手争いを行う。後半大きく失速することはなく、そのまま3着でフィニッシュ。

青柳は序盤から他の選手に遅れをとってしまう。コーナーを出た後は懸命の粘りで前との差を徐々に埋めたが、追いつくにはいたらず5着でフィニッシュ。

伊藤は脚の調子がおもわしくなかったのか、スタートから他大学の選手に遅れを取ってしまう。後半も伸び切れず、6着という悔しい結果に終わった。

女子 200m 予選

- 1組 DNS 房内 まどか(3)
3組 4位 中山 なつみ(2) 26"89

中山は、前半はインの選手たちに早々ととらえられ、厳しいレースとなるように思えたが、直線では素晴らしい伸びをみせ、前との差を大きく詰めた。4着でフィニッシュし、見事自己ベストをマークした。

男子 400m 予選

- 3組 1位 田中 裕志(M2) 50"51
4組 2位 南 共哉(2) 50"59
8組 1位 高林 佑輔(4) 50"99

田中は前半から積極的なレースを展開。2番手につけ、ラスト100mもよく粘り、前を走る選手をかわして1着でフィニッシュ。

南は前半から快調にとぼし、ラスト200mでは見事な切り替えをみせ、終盤まで先頭をキープ。その後もよく粘り2着でフィニッシュ。見事自己ベストをマークした。

高林は順調なスタートをきめ、リラックスした走りでバックストレートを駆け抜ける。ラストは集団を引き離し、危なげなく1着を確保した。

男子 400m 準決勝

- 1組 1位 高林 佑輔(4) 49"67
2組 3位 南 共哉(2) 51"32
3組 2位 田中 裕志(M2) 50"03

高林は序盤から滑らかな加速をみせた。バックストレートを抜けるあたりでは既に後ろを引き離して先頭を走る。最後までくずれることなく余裕で1着フィニッシュ。

南は疲れもあったか予選の様なレースはできなかったが、粘りの走りで4着。

田中はスムーズな走りで上位を走る。最後の追い上げも素晴らしく、2着でフィニッシュし、決勝進出を決めた。

男子 400m 決勝

1位 田中 裕志(M2) 48"81

3位 高林 佑輔(4) 49"42

田中、高林の2名が決勝に残った。序盤から高林が積極的にとぼし、その少し後ろを田中が追いかける。最終コーナーを抜け、ラスト100mで高林は先頭、田中は2、3番手につける。ここで田中が勝負をかけた。一気に高林をとらえ、先頭に。その後も他をひき離しながら逃げ切り、自身が4年時以来の48秒台で見事優勝をきめた。高林は必死に逃げきろうと粘ったが、ペースは落ちてしまう。ゴール直前でも1つ後ろの選手にかわされたが、3位入賞。

男子 800m 予選

1組 3位 辻川 優祐(3) 1'57"66

2組 2位 金子 修平(3) 1'57"71

5組 1位 大野 良輔(2) 1'59"76

辻川はレベルの高い組でのレースとなった。スタートから好位置につけ、先頭集団の中で走る。ラストは前の2選手に多少離されて3位でフィニッシュしたが、確実に準決勝進出を決めた。

金子は序盤から積極的なレースを展開。3位につけて600m地点からスパートをかけ、前の選手を捕えてそのまま2位でフィニッシュ。見事自己ベストで準決勝進出。

大野は最初の1周は先頭のやや後ろについて様子を伺う。しかし、そこから前に出て先頭に。余裕をもって1着を確保した。

男子 800m 準決勝

1組 2位 大野 良輔(3) 1'57"51

2組 5位 金子 修平(2) 1'59"01

3組 3位 辻川 優祐(3) 1'59"25

1組は、スタートから周りが飛び出し、大野は後方からのスタートとなった。ハイペースになったが、冷静に位置取りを行い、ラストはぐいぐい距離をつめてラスト50mで2位をとらえ、2着で決勝進出を決めた。

金子は、自己ベストを出した予選同様、序盤から積極的なレースを展開。1周目を3番手で通過したが、ラスト200mでまわりがスパートをかける中、粘り切れず5着におわった。

アウトレーンからのスタートとなった辻川だが、先頭に遅れをとらずに1周目を3番手で通過。後半1周も60秒でまとめたが、3着となり、1歩及ばず決勝進出を逃した。

男子 800m 決勝

5位 大野 良輔(3) 1'59"25

準決勝の疲れもあったか、大野はスタート直後から先頭集団の4人についていけず、単独で5位を走る。先頭集団は1周目を55秒で通過。大野はまだ追いつける位置につけるも後半のびず、更に離された。しかし5位の位置は譲らずそのままフィニッシュ。

男子 1500m 予選

1組 4位 藤澤 萌人(2) 4'02"13

2組 7位 大野 良輔(3) 4'09"05

3組 3位 三上 和樹(2) 4'08"67

藤澤は序盤から集団前方で積極的なレースを展開。中盤の激しい位置争いでも譲らず、ラスト1周では先頭に出る。ラストの競り合いには負けたものの、粘って4着でフィニッシュ。見事自己ベストをマークして決勝進出を決めた。

大野はスタート後落ち着いて集団の中盤に位置どる。ラスト1周までは少し後ろで様子を見ながらレースをすすめる、そこから

一気に先頭に出る。しかしラストで伸びきれず、7着におわった。

三上は集団の先頭付近についてレースをすすめる。そのまま3、4番手の好位置につけてラスト1周にさしかかり、スパート合戦の競り合いをものにして3着でフィニッシュ。決勝進出を決めた。

男子 1500m 決勝

3位 藤澤 萌人(3) 4'01"59

8位 三上 和樹(2) 4'06"95

スタートでは、藤澤が集団の中ほど、三上が最後尾から付いていく形となった。700m地点で、藤澤がトップ付近につき、三上はまだ後方から上がれずにいた。ラスト1周に入ると、藤澤は最後まで粘り、1人に抜かれたが、自己ベストを更新して見事3位入賞を果たした。三上は終盤徐々にあがっていったが、トップ集団に追いつくには至らず、かろうじて8位入賞を果たした。

女子 1500m 予選

1組 7位 小高 真衣(3) 5'12"03

2組 11位 石井 花織(2) 5'37"71

小高は序盤5、6番手の位置につく。先頭集団の1周目がハイペースだったこともあり、その後先頭から少し離されてしまった。次第に減速する苦しいレースとなり、最後には7着でフィニッシュ。

石井は集団の後方でレースをすすめる。自分のペースを貫いて走り、ラスト200mでスパート。11着でフィニッシュし、自己ベストをマークした。

男子 5000m 決勝

1組 8位 深渡 慎一郎(2) 15'38"46

15位 菅野 均(3) 16'08"93

21位 稲毛義樹(M1) 17'04"53

突き刺すような日差しの中でスタート。序盤、3選手とも4位集団についてレースを

進める。稲毛が徐々に前に出る動きを見せ、一時4位集団を引っ張るが、2000m手前でやや遅れ始めた。深渡、菅野は入賞圏内やや後方から前方を伺う。菅野の少し前を走る深渡は3000mを9'20で通過。その後粘りのレースをみせ、見事8位入賞した。菅野は終盤やや失速し15着。稲毛は後半集団についていけず21着におわった。

女子 5000m 決勝

8位 小高 真衣(3) 19'38"65

14位 鈴木 はるか(3) 20'21"27

2選手とも集団後方でのスタート。1000mあたりで、小高は7位集団につけるが、鈴木は少しずつ遅れだす。小高もだんだんペースが落ち、集団から離れ苦しいレースとなったが、粘りをみせペースの落ちた前の走者を捕まえ順位を上げる。最終的には小高は8位でフィニッシュ。鈴木は終始後方でのレースだったが14位でフィニッシュ。

男子 10000m 決勝

1組 12位 山本 悠平(2) 34'34"41

16位 石代 剛之(3) 35'16"86

石代は集団の中盤でスタートし、山本もその後方でゆったりとスタート。1000m過ぎで集団がバラけだし、2選手とも中間グループの中でのレースとなった。2000m過ぎで石代が遅れ始め、山本は孤立しながらも粘りのレースを続ける。5000mを山本は16"30、石代は16'46で通過。その後徐々にペースが落ち、粘りきれないままにゴール。蒸し暑く厳しい条件で、両者ともベストとはほど遠い厳しいレースとなってしまった。

男子 110mH 予選

1組 千葉 優人(1) DNS

3組 3位 岩崎 辰哉(M1) 15"94

4組 2位 向出 周太(2) 16"09

岩崎は素晴らしい反応をみせ、ハードル

間もスムーズに加速。上位 3 人の先頭争いを繰り広げる。前の 2 選手には先行されるも、最後は流して余裕で 3 着を確保した。

向出の出場した 4 組目は欠場者の多いレースとなった。スタートはやや出遅れたようにも見えたが安定感のあるハードリングで最後までくずれず 2 着でフィニッシュ。

男子 110mH 準決勝

1 組 6 位 向出 周太(2) 15"92

2 組 岩崎 辰哉(M1) DNF

向出のスタートはまずまず。ハードル間も安定したリズムで走りぬいたが、上位争いには食い込めないまま 6 着に終わった。

岩崎はスタートで鋭い反応をみせた。かなりの混戦となったレースで、先頭集団の少し後ろを走るが、徐々にその差をつめていく。しかし、いよいよ先頭に並ぶかと思われた 9 台目で、脚をひっかけて転倒してしまった。着順での決勝進出も十分に狙えただけに、悔いの残る結果となった。

男子 400mH

1 組 3 位 田中 裕志(M2) 55"62

2 組 千葉 優人(1) DNS

5 組 3 位 柴田 智弘(M2) 56"59

田中はスタートから積極的なレースを展開。大きなストライドでハードル間を駆け抜けたが、2 台目で脚が合わなくなった。序盤のミスが響き後半はかなり苦しくなり、懸命に粘るも、3 着で決勝を逃した。

柴田は軽やかなスタートでとびだし、序盤から積極的な走りをみせた。5 台目過ぎまで先頭を走るも、その後他大学の 2 選手があがってきた。懸命に粘り逃げきろうとしたが最終ハードルで並ばれ、3 着におわった。

男子 3000mSC 決勝

1 組 8 位 尾形 翔平(3) 9'38"01

14 位 尾形 洋平(4) 10'04"18

2 組 2 位 森部 峻介(3) 10'08"22

尾形翔平、洋平が出場した 1 組目の序盤、両者ともに先頭集団につけていたが、1000m 過ぎから尾形(洋)が後方におちていき、1500m で離された。尾形(翔)は 2000m 過ぎからペースアップした集団についていけず、単独で走る形となった。後半のびなかつたが、なんとか粘り 8 位入賞を果たした。尾形(洋)は 14 位でフィニッシュした。

男子 10000mW 決勝

3 位 角川 拓也(2) 52'15"92

角川は序盤 3 位につける好スタート。先頭 2 人には差をつけられるものの、表彰台を狙える位置でレースを進める。3000m 過ぎから単独 3 位に浮上すると、ペースをおとしつつも粘り、そのまま順位を守りゴール。見事 2 年連続で表彰台に登った。

男子 4×100mR 予選

3 組 3 位 43"06

岡崎(2)-鈴木(M1)-小林(1)-青柳(D2)

1 走岡崎は素晴らしいスタートをみせ、多少つまりながらも 2 走鈴木にバトンパス。鈴木は持ち前の大きな走りで駆け抜ける。3 走小林は最近調子を取り戻しつつあるようで、粘りの走りをみせる。アンカーの青柳にわたった時点で順位は 4 位。意地の走りで先行する選手をかわして 3 位に浮上したものの、決勝には届かなかった。

女子 4×100mR

2 組 6 位 53"10

安部(1)-中山(2)-千葉(1)-金子(1)

1 走の安部はスタート後、粘りの走りをみせて 2 走にバトンをわたす。2 走中山はバックストレートの追い風を味方につけ、見事な加速をみせ 3 走へ。このバトンパスがスムーズに決まり、3 走の千葉はその勢いを生かして走る。4 走の金子も気合いの走りをみ

せたが、全体としては6着におわった。

男子4×400mR 予選

3組 1位 3'20"93

高林(4)-柴田(M2)-南(2)-田中(M2)

1走高林はスタートから落ち着いた走りで徐々に他の選手を離していく。最後には大きく差をつけて2走にバトンをつなぐ。2走柴田は独走状態で競り合う相手がいない中でのレースとなったが、依然大差をつけてバトンは3走へ。3走南は落ち着いた自分のペースでレースを展開。ラスト100mでしっかり切り替え、その差を維持したままアンカーへ。アンカーの田中は終始余裕のあるレースを展開。最後には後ろを確認する余裕をみせて1着を確保した。

男子4×400mR 決勝

2位 3'19"09

岡崎(2)-柴田(M2)-南(2)-田中(M2)

400mで3位入賞を果たした高林に代わり、1走は岡崎。序盤からアウトの選手がハイペースで走っていたが、自分のペースでレースを展開。200m付近から切り替え、前との差を縮め、3位の好位置でバトンをつなぐ。2走柴田は1走の勢いそのままに積極的なレースを展開。3位のポジションを維持したままラスト100mへ。しかし、後ろの選手たちの追い上げがよく、2人にかわされ、5番手でバトンは3走へ。3走南は混戦の2位集団の中で5位の位置を譲らずに最後の直線に突入し、ここで勝負をかけた。ラストの懸命なスパートで2人をおかわし、再び3位に浮上。バトンパスで一度4位に落ちるが、アンカーは400m優勝の田中。既に1位の大学は遠く、4大学による2位争いとなった。厳しい競り合いが繰り広げられるまま集団は最後の直線へ。田中はここでとびだし、2位に浮上。その後も粘り、その位置

を譲ることなく見事2位入賞を果たした。

フィールド

男子走高跳

5位 山田 健太郎(1) 1m90

13位 奥 裕之(2) 1m80

岡部 大輝(1) DNS

山田は1m85からの挑戦。一度失敗するも2回目で修正し、1m90も1度で成功。その後の1m95は惜しくも失敗してしまっていたが、1m90で5位入賞を果たした。

奥は1m80からの挑戦。1回目は腰にあててしまい2回目は頂点が合わずに失敗。しかし、3回目で上手く合わせて成功した。まだ記録を伸ばせるかと期待できる内容であったが、1m85を越えることはできなかった。

女子走高跳

6位 安部 瑛里奈(1) 1m50

星 麻沙美(2) NM

安部は1m40からの挑戦。多少踏切位置が定まらず、苦戦した面もあったようにもみえたが順調に記録をのばして1m50で6位入賞。

星も1m40から始めた。若干助走に迷いがあるようにみえ、越えることができずにNMにおわった。

男子棒高跳

2位 高橋 理寛(3) 4m60

5位 白井 孝明(M2) 4m30

佐藤 裕貴(2) 3m70

高橋は4m30からの挑戦。4m50までは余裕のある跳躍で一発クリア。4m60では1度失敗するも直ぐに修正して2本目で成功。4m70では身体が上がりきらずに失敗したが、見事2位で表彰台にのぼった。

白井は高橋同様 4m30 からの挑戦。1 本目で余裕をもってクリア。次の 4m50 では、2 本目では完全に身体を越える惜しい跳躍だったが失敗。しかし、5 位入賞。

佐藤は 3m70 からの挑戦。1 本目、身体が少しあがらずにひっかけてしまったが、2 本目で修正し、成功。続く 3m90 は失敗した。

男子走幅跳

大村 祐大(M1) 6m85(-0.1)

安井 令(2) 6m23(+2.0)

大村は踏切が 1 本目は余り、2 本目はファールしたが、3 本目でよくまとめた。ベストまであと 1 歩の惜しい跳躍となった。

安井は 2 本目に少し右足首を痛めてしまったように思うような記録が残せなかった。

女子走幅跳

中山 なつみ(2) 4m79(+1.9)

金子 奈緒(1) 4m53(+2.9)

中山は 1,2 跳目に安定した記録を残し、3 跳目に踏切で 5cm ほど余したが 4m79 をマーク。

金子は 1 跳目で踏切ピッタリの跳躍をみせる。その後、助走はスピードに乗っていてよかったが、2、3 跳目ともにファール。

男子三段跳

5 位 大村 祐大(M1) 14m60(+2.2)

9 位 瀧澤 翔太(M1) 14m17(+1.0)

大村は 1、2 跳目と安定した跳躍をみせ、2 跳目の記録でベスト 8 をきめた。その後はファールが続き、2 跳目の記録を越すことはできなかったが、見事 5 位入賞を果たした。

瀧澤の 1 跳目はステップが少し短めの跳躍になってしまった。2 跳目で修正して見事 14m 台にのせたが、ベスト 8 には惜しくも残ることができなかった。

男子砲丸投

5 位 柳澤 邦彦(3) 11m69

24 位 酒井 利晃(1) 9m14

28 位 山崎 大志(2) 7m92

柳澤は 1 投目、力強い投げで 11m69 を記録。しかしその後は思うようなグライドができず、記録を伸ばせないまま競技終了。5 位入賞となった。

酒井の 1 投目はスピードに欠ける力が入っていない投擲であった。しかし 2 投目にしっかり改善して勢いのある投げで 9m14 のベストを記録。3 投目も記録は伸ばせなかったが突き出し自体は良かった。

山崎はグライドが乱れており、下半身を使った投擲ができていなかった。腰の怪我が治っておらず、終始思うような投擲ができていなかった。怪我を直してパワーを付け、来期は万全な状態で臨んでほしい。

男子円盤投

1 位 柳澤 邦彦(3) 45m68

18 位 石川 遼(1) 30m47

25 位 山崎 大志(2) 23m63

練習から好調を維持している柳澤は 3 連覇を目指す。1、2 投目は少し力が入ったか左に逸れる投擲が続く。しかし 3 投目、速いターンから力強い振り切りでリバースまでしっかりと決めて投じた円盤は 40m ラインを大きく超え、記録は大会記録更新の 45m68。自己ベストを投げて他を引き離して 3 連覇を成し遂げ、最優秀選手に選ばれた。またこれにより全日本インカレの B 標準を突破し、出場権を得た。

石川は 1 投目にスムーズで速いターンからしっかりと振り切り、30m を越える投擲を見せる。その後は少し抜けた感じの投げが続き、記録を伸ばせなかったが安定感は以前より増したように感じる。

山崎は 1 投目から腰の痛みに負けず思い切りよく振り切った。2 投目はターンが小さ

くなって力がうまく伝えられなかったが、3投目はそれを改善してうまくターンからの流れをまとめていた。力強さがいつもより足りなかったのは、やはり腰の怪我の影響か。しっかり治して冬季練習に移行したい。

男子ハンマー投

13位 柳澤 邦彦(3) 34m83

17位 八柳 暁(3) 30m59

18位 山崎 大志(2) 21m29

柳澤は3回転が安定せず苦しむ。1投目はフィニッシュのタイミングがズレて少し引っ張りすぎてしまった。しかし2投目から2回転に切り替えるとターンは安定し、2投目に34m83を記録した。次は3回転を安定させてさらなる向上を目指して欲しい。

八柳の1投目はターンはスムーズだったものの、フィニッシュが少し甘く記録は30m59。2投目も同様の投げで記録を伸ばせず、3投目に3回転に挑戦したが2回転目で軸がズレてしまい、中途半端な投擲に。ベスト更新ならず悔しい結果となった。

山崎は1投目、スムーズにターンできずファール。2投目はターンに速度はあったもののハンマーと体が連動しておらず、力がいまいち伝わらなかった。3投目もうまく改善できず、21m29で競技を終えた。

男子やり投

1位 杉本 和志(4) 63m62

10位 伊藤 泰彬(1) 52m51

15位 高橋 航(2) 48m36

少し風が強い条件での競技となった。

杉本は1投目から力強い投げを見せる。もう一伸びが無いまま迎えた4投目、リズムの良いスピード感のある助走から勢のある投げ。63m62を記録し、トップに立つと後続を寄せ付けず優勝。3連覇を果たし、優秀選手に選ばれた。

伊藤は助走から投げに上手く繋げられず、もう一步距離が出ない。風にも苦しめられ、やりの軌道が乱れていた。思い通りの投げができず、52m51の10位で競技終了。

高橋の1投目は綺麗な軌道を描き、48m36を記録。2投目は助走が乱れ、1投目よりも勢いが出ない。3投目はスムーズに投げにつながれたが思うように力が伝わらず、記録を伸ばすには至らなかった。最終的には1投目の記録で15位に終わった。

男子十種競技

4位 渋谷 知暉(3) 5622点

途中棄権 藤井 翼(3)

渋谷は久々の十種競技。怪我からの病み上がりといえる状況でどこまで記録を伸ばせるか。初日は走幅跳で伸ばせず苦しい展開となるが、砲丸投と400mで自己ベストを記録し、初日終了時では自己ベストペース。2日目は得意のハードルで失速するも、円盤投でベスト、やり投げも自己新に迫る49mスローを見せる。最後の1500mは周りのペースが全体的に速かったためそれに引っ張られ5分切り。総合5622点の自己ベストを記録したが最後に一人に抜かれ4位となり、表彰台を逃し悔しい結果となった。

藤井は高跳びで腰を痛めてしまい途中棄権。2週間後に個人戦もあるのでしっかり休養を取ってほしい。

女子七種種競技

千葉 愛里沙(1) 2578点

途中棄権 星 麻沙美(2)

千葉は大学で初めての七種競技。投擲種目や走高跳など初挑戦の競技が幾つかあったが、しっかり最後までやりきった。まだ1年生であり、これからの成長に期待したい。

星は2日目の走幅跳ののち途中棄権した。

第 39 回東北学生陸上競技選手権大会 (10/1~10/2) 仙台市陸上競技場

今年も多数の部員が参加しました。短距離では男子 400m で高林(4)が 2 位に、男子 400m で田中 (M1)が 3 位に入りました。跳躍競技では男子走高跳で山田(1)が 2 位に、男子棒高跳で白井(M2)が見事優勝し、高橋(2)が 3 位入賞しました。また、大村(M1)が男子走幅跳で 3 位入賞、男子三段跳で見事優勝しました。投擲競技では男子やり投で杉本(4)が 3 位に入りました。混成競技では藤井(3)が 2 位入賞しました。記録の一部を紹介します。

種目	順位	レーン	氏名(学年)	記録
男子 200m 決勝	7 位	8	高林 佑輔(4)	22"76(-0.6)
女子 200m 決勝	4 位	1	中山 なつみ(2)	26"84(+0.9)
男子 400m 決勝	2 位	4	高林 佑輔(4)	49"61

種目	順位	レーン	氏名(学年)	記録
男子 800m 決勝	4 位	2	大野 良輔(3)	1"59"05
男子 1500m 決勝	4 位	—	大野 良輔(4)	4"12"74
	7 位		辻川 優祐(3)	4"18"05
	11 位		山根 由経(2)	4"32"45

種目	組	順位	氏名(学年)	記録
男子 5000m 決勝	1 組	7 位	西井 大樹(1)	16"40"94
		12 位	角川 拓也(2)	17"15"75
		15 位	醍醐 賢輔(2)	17"46"03
		16 位	宝田 拓馬(2)	17"47"94
	2 組	1 位	山本 悠平(2)	15"37"43
		8 位	山根 自経(2)	15"52"18
		9 位	杉山 祥太郎(3)	15"53"37
		13 位	森部 峻介(3)	16"03"78
		15 位	辻川 優祐(3)	16"10"61
		17 位	近藤 一樹(3)	16"17"48
		18 位	南 敦(3)	16"19"65
		19 位	工藤 佑馬(4)	16"21"16
		22 位	植木 達矢(2)	16"30"99
	25 位	田辺 明(2)	17"03"55	
	3 組	10 位	尾形 翔平(3)	15"15"58
12 位		深渡 慎一郎(2)	15"21"78	
15 位		菅野 均(3)	15"46"38	
21 位		三上 和樹(2)	16"00"56	

		22位	石代 剛之(3)	16"02"72
		23位	尾形 洋平(4)	16"18"12
			稲毛 義樹(M1)	DNS

種目	組	順位	氏名(学年)	記録
女子 5000m 決勝	1組	4位	小高 真衣(3)	19"11"85
		8位	鈴木 はるか(3)	19"45"26
		10位	石井 花織(2)	21"03"66
	2組	2位	鈴木 絢子(1)	17"15"05

種目	組	順位	氏名(学年)	記録
男子 10000m 決勝	1組	4位	田辺 明(2)	32"50"26
		8位	植木 達矢(2)	34"07"19
		10位	工藤 佑馬(4)	34"23"03
		12位	近藤 一樹(3)	34"53"76
		15位	南 敦(3)	34"07"19
			尾形 洋平(4)	DNS
			斎藤 寛峻	DNS
	2組	8位	尾形 翔平(4)	32"15"22
		9位	石代 剛之(3)	32"25"46
		12位	山本 悠平(2)	32"40"17
		21位	杉山 祥太郎(3)	34"12"09
	22位	稲毛 義樹(M1)	35"22"38	

	順位	レーン	氏名(学年)	記録
男子 110mH 決勝	6位	2	岩崎 辰哉(M1)	15"34(+2.8)
女子 100mH 決勝	2位	2	松田麻季(2)	15"33(+0.4)

種目	順位	レーン	氏名(学年)	記録
男子 4×100mR 決勝	6位	8	小林(2)-鈴木(M1)-向出(2)-畠山(3)	43"41
男子 4×400mR 決勝	4位	1	高林(4)-南(2)-岡崎(2)-田中(M2)	3"19"19
女子 4×400mR 決勝	7位	3	中山(2)-下島(2)-房内(3)-千葉(1)	4"18"34

種目	順位	氏名(学年)	記録
男子走高跳	2位	山田 健太郎(1)	1m94
女子走高跳	6位	星 麻沙美(2)	1m35
男子棒高跳	1位	白井 孝明(M2)	4m60
	3位	高橋 理寛(3)	4m40
	8位	佐藤 裕貴(2)	3m80
男子走幅跳	1位	大村 祐大(M1)	6m70(+1.2)
	8位	瀧澤 翔太(M1)	6m26(+1.8)
男子三段跳	1位	大村 祐大(M1)	14m73(+4.3)
	5位	瀧澤 翔太(M1)	13m84(+1.6)

種目	順位	氏名(学年)	記録
男子円盤投	4位	柳澤 邦彦(3)	41m45
男子やり投	3位	杉本 和志(4)	56m83
	7位	伊藤 泰彬(1)	52m46

種目	順位	氏名(学年)	記録
男子十種競技	2位	藤井 翼(3)	5520

#OB 対現役対抗戦(10/9) 於 評定河原競技場

・トラックの部

学年	氏名	100m 記録	100m 得点	400m 記録	400m 得点	1500m 記録	1500m 得点	トラック得点
M2	田中裕志	11.38	778	51.40	751			778
3	藤井翼	11.96	659					659
2	岡崎和貴	11.77	697	52.56	700			700
1	山田健太郎	11.92	667					667
3	伊藤亮輔	11.53	746	57.32	509	6.15.94	203	746
4	杉本和志	12.12	628			6.25.47	170	628
2	向出周太	11.32	791					791
M1	岩崎辰哉	12.35	584			5.01.73	550	584
3	柳澤邦彦	13.59	373			6.15.19	205	373
2	佐藤裕貴	12.06	639					639
H19 卒	鈴木義教			52.99	682	4.56.78	578	682
2	藤澤萌人	13.65	363	57.83	490	4.09.99	881	881
2	奥裕之	12.60	538					538
1	畑岡進	12.28	597					597
2	南共哉	12.02	647					647
M1	鈴木貴幸	11.75	701	53.09	678			701
2	醍醐賢輔	13.56	377	59.70	423	4.47.23	635	635
3	高田健伍					4.36.18	705	705
2	佐藤基明					4.50.49	616	616
2	山根由経	13.09	453	56.90	525	4.16.95	833	833
4	工藤佑馬	13.77	346	59.83	419	4.24.28	783	783
4	高林佑輔	11.55	742			4.40.22	679	742
3	安井令	11.62	728					728
3	辻川優祐	12.50	556	54.61	615	4.34.09	718	718
2	三上和樹	13.81	340	55.37	584	4.12.44	864	864
2	金子修平					4.25.11	777	777
1	石川遼	12.25	603	65.55	244	6.12.49	215	603
2	中道和輝	12.74	513					513
H4 卒	安井誠一郎	12.74	513					513
3	畠山真慈	11.58	736	62.38	336	6.23.59	176	736

3	八柳暁	12.67	525	57.84	490	5.45.96	324	525
2	山本悠平			59.43	433	4.33.73	720	720
3	尾形翔平					4.20.06	811	811
2	増村巧	12.56	545					545
M1	瀧澤翔太	12.10	631					631
2	田辺明	14.76	213	66.24	226	4.29.60	747	747
2	田中悠貴	12.70	520					520
2	植木達矢	14.10	298	61.18	374	4.26.26	769	769
4	赤平和紀			56.02	558	5.12.67	489	558
1	西田舜	12.73	515					515
2	宝田拓馬	13.04	461	59.98	414	4.49.35	623	623
1	千葉優人					5.07.96	515	515
D1	伊勢只義	14.55	239					239
2	高橋航	13.29	420			5.51.64	299	420
1	大友康平	13.82	338			4.51.23	611	611
S60 卒	池田光司	13.63	367					367
3	荒木学	13.11	449			5.35.93	371	449
2	村田晃太郎	12.42	571					571
4	田澤央充	12.68	523	70.11	135	6.39.51	126	523
3	杉山祥太郎			60.77	387	4.24.63	780	780
2	保坂佑斗			59.15	443			443
3	森部峻介	13.56	377	60.77	387			387
3	南 敦					4.34.64	714	714
2	中山なつみ	13.48	390			6.38.51	129	390
2	松田麻李	13.80	341			5.35.03	375	375
1	西井大樹	15.76	109	71.80	102	4.52.05	606	606
2	下島千歩	14.58	235	67.84	186	6.05.67	241	241
1	酒井利晃	14.62	230			6.38.07	130	230
4	尾形洋平					4.19.85	813	813
1	前田敏希	12.54	549					549
2	星麻沙美	15.03	182	73.25	77	6.43.44	115	182
3	近藤一樹			59.24	439	4.37.53	696	696
3	高橋理寛							0
M1	一ノ倉聖							0

3	小高真依			79.81	6	5.33.81	381	381
S55 卒	園盛之介	16.07	83			5.23.44	432	432
S56 卒	眞山隆徳	15.78	107			5.40.98	347	347
3	房内まどか					5.47.26	318	318
1	新田翔太			55.80	567			567
2	石井花織					5.49.47	309	309
S55 卒	古澤元一					5.13.90	482	482
1	本間大輔			58.21	476			476
1	東将平							0
1	安部瑛里奈					6.44.88	111	111
1	岡部大輝							0
2	森田貴大							0
S41 卒	片岡克朗							0
S55 卒	佐藤源之							0
S46 卒	藤田文夫	15.23	160			6.45.53	109	160
4	鈴木一輝							0
3	松浦大貴							0
S43 卒	宮崎鉄男							0
H20 卒	八木洋光							0
2	齊藤寛峻							0
S47 卒	岩渕明							0
3	石代剛之							0

・跳躍の部

学年	氏名	走幅跳記録	走幅跳得点	走高跳記録	走高跳得点	跳躍得点
M2	田中裕志	5.92	569			569
3	藤井翼	6.24	639	1.50	389	639
2	岡崎和貴	6.53	704			704
1	山田健太郎	5.76	535	1.85	670	670
3	伊藤亮輔	5.85	554	1.50	389	554
4	杉本和志	5.77	537	1.50	389	537
2	向出周太	5.50	481	1.55	426	481
M1	岩崎辰哉	6.20	630	1.50	389	630
3	柳澤邦彦	5.27	435	1.45	352	435

2	佐藤裕貴	5.57	496	1.45	352	496
H19 卒	鈴木義教	5.65	512			512
2	藤澤萌人	4.93	369	1.45	352	369
2	奥裕之	4.98	378	1.75	585	585
1	畑岡進	5.79	542			542
2	南共哉	5.68	519	1.40	317	519
M1	鈴木貴幸	5.59	500	1.40	317	500
2	醍醐賢輔	5.89	563	1.35	283	563
3	高田健伍	4.65	317	1.40	317	317
2	佐藤基明	5.25	431	1.65	504	504
2	山根由経	4.79	343	1.35	283	343
4	工藤佑馬	4.72	330			330
4	高林佑輔	6.15	619			619
3	安井令	6.20	630	1.40	317	630
3	辻川優祐	4.75	335			335
2	三上和樹	4.35	264	1.35	283	283
2	金子修平			1.35	283	283
1	石川遼	4.37	267			267
2	中道和輝			1.60	464	464
H4 卒	安井誠一郎	5.62	506			506
3	畠山真慈	5.07	396	1.40	317	396
3	八柳暁	5.15	411	1.40	317	411
2	山本悠平	4.69	324			324
3	尾形翔平	4.57	303			303
2	増村巧	5.50	481	1.45	352	481
M1	瀧澤翔太	6.13	615			615
2	田辺明	4.26	249	1.20	188	249
2	田中悠貴	5.90	565	1.60	464	565
2	植木達矢	4.23	244	1.25	218	244
4	赤平和紀			1.45	352	352
1	西田舜	5.30	441			441
2	宝田拓馬	4.80	345	1.30	250	345
1	千葉優人			1.40	317	317
D1	伊勢只義	5.32	445	1.45	352	445

2	高橋航	4.84	352			352
1	大友康平	4.40	273			273
S60 卒	池田光司	5.32	445			445
3	荒木学	4.83	350			350
2	村田晃太郎	4.41	274	1.30	250	274
4	田澤央充	4.37	267	1.10	131	267
3	杉山祥太郎	4.13	227			227
2	保坂佑斗	5.32	445			445
3	森部峻介	4.90	363	1.40	317	363
3	南 敦			1.30	250	250
2	中山なつみ	4.73	332	1.25	218	332
2	松田麻李	4.60	308	1.25	218	308
1	西井大樹	3.53	135			135
2	下島千歩	4.48	287	1.30	250	287
1	酒井利晃	3.82	177			177
4	尾形洋平					0
1	前田鉾希					0
2	星麻沙美	4.34	262	1.35	283	283
3	近藤一樹					0
3	高橋理寛	5.08	398	1.40	317	398
M1	一ノ倉聖			1.55	426	426
3	小高真依	3.22	93			93
S55 卒	園盛之介					0
S56 卒	眞山隆徳	3.11	79			79
3	房内まどか	3.02	68	1.20		68
1	新田翔太					0
2	石井花織	2.88	52			52
S55 卒	古澤元一					0
1	本間大輔					0
1	東将平	4.69	324	1.60	464	464
1	安部瑛里奈			1.45	352	352
1	岡部大輝					0
2	森田貴大					0
S41 卒	片岡克朗					0

S55 卒	佐藤源之					0
S46 卒	藤田文夫					0
4	鈴木一輝					0
3	松浦大貴					0
S43 卒	宮崎鉄男					0
H20 卒	八木洋光					0
2	齊藤寛峻					0
S47 卒	岩渕明					0
3	石代剛之					0

・投擲の部と総合得点

学年	氏名	砲丸投記録	砲丸投得点	円盤投記録	円盤投得点	投擲得点	総得点
M2	田中裕志	9.48	454	23.54	339	454	1801
3	藤井翼	9.60	462	25.46	376	462	1760
2	岡崎和貴	7.31	326	21.07	292	326	1730
1	山田健太郎	6.94	304	18.25	239	304	1641
3	伊藤亮輔	7.47	335	22.26	315	335	1635
4	杉本和志	9.71	468	26.80	402	468	1633
2	向出周太	7.66	346	17.17	220	346	1618
M1	岩崎辰哉	7.38	330	20.03	273	330	1544
3	柳澤邦彦	12.11	613	42.60	718	718	1526
2	佐藤裕貴	7.84	357	20.95	290	357	1492
H19 卒	鈴木義教	6.57	282			282	1476
2	藤澤萌人	5.55	223	16.65	210	223	1473
2	奥裕之	7.55	340	21.39	298	340	1463
1	畑岡進	7.20	319			319	1458
2	南共哉	6.51	279	12.18	130	279	1445
M1	鈴木貴幸	5.69	231	12.18	130	231	1432
2	醍醐賢輔	5.54	222	11.93	125	222	1420
3	高田健伍	7.78	353			353	1375
2	佐藤基明	6.10	255	16.05	199	255	1375
2	山根由経	5.13	198	12.15	129	198	1374
4	工藤佑馬	6.12	256			256	1369
4	高林佑輔					0	1361

3	安井令					0	1358
3	辻川優祐	6.93	303	15.35	186	303	1356
2	三上和樹	5.20	202	13.38	151	202	1349
2	金子修平	6.64	286	20.74	286	286	1346
1	石川遼	7.95	363	30.35	471	471	1341
2	中道和輝	7.72	350	16.42	206	350	1327
H4 卒	安井誠一郎	6.94	304	20.96	290	304	1323
3	畠山真慈	4.95	188	12.97	144	188	1320
3	八柳暁	7.42	332	24.92	366	366	1302
2	山本悠平	5.78	236			236	1280
3	尾形翔平			14.04	163	163	1277
2	増村巧	5.64	228			228	1254
M1	瀧澤翔太					0	1246
2	田辺明	5.77	235	11.85	124	235	1231
2	田中悠貴			12.38	133	133	1218
2	植木達矢	5.19	202	11.80	123	202	1215
4	赤平和紀	6.95	304			304	1214
1	西田舜	6.05	252	8.36	65	252	1208
2	宝田拓馬	4.99	190	13.65	156	190	1158
1	千葉優人	6.66	287	19.92	271	287	1119
D1	伊勢只義	9.15	435			435	1119
2	高橋航	7.48	336	18.58	246	336	1108
1	大友康平	5.40	214			214	1098
S60 卒	池田光司	6.53	280	14.44	170	280	1092
3	荒木学	6.74	292			292	1091
2	村田晃太郎	5.75	234	16.40	205	234	1079
4	田澤央充	5.92	244	17.65	228	244	1034
3	杉山祥太郎					0	1007
2	保坂佑斗			11.36	116	116	1004
3	森部峻介	6.06	252			252	1002
3	南 敦					0	964
2	中山なつみ	5.25	205	12.95	143	205	927
2	松田麻李	5.26	206	8.75	71	206	889
1	西井大樹	4.18	144			144	885

2	下島千歩	6.94	304	13.03	145	304	832
1	酒井利晃	8.86	417	20.72	286	417	824
4	尾形洋平					0	813
1	前田鉾希	6.10	255	15.14	183	255	804
2	星麻沙美	6.22	262	11.07	110	262	727
3	近藤一樹					0	696
3	高橋理寛	6.76	293			293	691
M1	一ノ倉聖	5.37	212	15.44	188	212	638
3	小高真依	4.39	156			156	630
S55 卒	園盛之介	5.02	192			192	624
S56 卒	眞山隆徳	4.77	178			178	604
3	房内まどか	5.15	200			200	586
1	新田翔太					0	567
2	石井花織	4.44	159	12.79	141	159	520
S55 卒	古澤元一					0	482
1	本間大輔					0	476
1	東将平					0	464
1	安部瑛里奈					0	463
1	岡部大輝	8.54	398	19.96	271	398	398
2	森田貴大	7.57	341			341	341
S41 卒	片岡克朗	7.44	333	19.18	257	333	333
S55 卒	佐藤源之	7.41	331	18.62	246	331	331
S46 卒	藤田文夫			13.86	160	160	320
4	鈴木一輝			21.07	292	292	292
3	松浦大貴	6.45	275			275	275
S43 卒	宮崎鉄男	6.43	274			274	274
H20 卒	八木洋光	6.13	256			256	256
2	齊藤寛峻	5.65	228	7.95	58	228	228
S47 卒	岩渕明			16.57	209	209	209
3	石代剛之			15.40	187	187	187

#第23回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10/10) 於 出雲

出雲を舞台に開催されました。日本学生陸上競技連盟推薦による大学単独 16 チーム、そして地区学連選抜チーム等 5 チームによる 21 チームにより争われました。

東北大学からは菅野(3)、深渡(2)が東北学連選抜として選ばれ、当日には深渡が 5 区を走ることになりました。

出場選手からコメントを頂きました。

～出雲駅伝を終えて…～

深渡 慎一郎

学部生 2 年の深渡慎一郎です。

此の度、10月10日に開催されました、第23回出雲全日本大学選抜駅伝競走に、東北選抜として参加し、5区に出走してきましたので、この場をお借りして報告いたします。

今大会は私にとって初の全国大会ということで、嬉しく思う反面、どうしようもない不安と焦燥感に駆られてのレースでした。事前の目標としては、

- 1、場の空気に惑わされない
- 2、全国レベルの走者に死に物狂いで着いていく
- 3、何かしらチームにとって益たらんものを持ちかえる

といったことを掲げていました。

上記のことを踏まえた上で、結果を端的に述べてしまえば、今回はほぼ失敗だったのではないかと、自分でそう思ってしまわざるを得ません。まずアップの時点から全国の選手の圧倒的な存在感に怖気づいてしまい、終始において、リラックスした状態とは程遠かったと思います。また東北学連チームは、一区から皆一様に不調で、私に襷が繋がった際には既に後方の集団からも落伍し、大幅な最下位でした。ゆえに単独走を強いられたのですが、私とは言うように、自分の走行ペースを完全に見失い、区間通じて常に混乱した状態に陥っていました。通過ラップの完全にわからない、己の感覚のみで走らなければならない、駅伝と云うものへの、明瞭な私の不適應さは、今後の各種駅伝並びにロードレース、延いては次の全日本大学駅伝に向けての、看過すべからぬ課題であろうことを深く痛感しました。

上記のように、今回は満足いく結果ではなく、目標自体も蹉跎してしまいましたが、調子自体は悪くはありません。寧ろ減退傾向は一切なく、日々鋭気極まりつつあるのを実感するところです。このまま調子を上げ続け、次の全日本大学駅伝では、主体的にレースに参加していきたいと思っておりますので応援の方、宜しくお願いします。

～出雲駅伝を終えて～

菅野 均

今秋、10月10日に出雲市で行われました出雲駅伝に東北学連選抜の一員として参加してまいりました。直前の選考レースの結果から、残念ながら実際に出雲の地を走ることは叶わなかったのですが、とても貴重な経験をさせていただきました。全国トップレベルの選手の走りを目の前で見るとはもちろん、試合に取り組む姿勢や準備の方法などとても多くの

ことは学ぶことができました。また、東北地区の力のある選手と同じチームで共に戦えたことは、大きな刺激であり、より高い意識を持って競技に取り組むようになりました。今年の東北地区の上位選手は4年生が多いこともあり、その多くが今年度で卒業されるので、来年の東北地区を自分が引っ張っていくと決意を新たにしたところです。しかし、チームが最下位に沈み、そんな中でも実際に走ることができないのは自分の実力がまだまだ未熟であることに違いありません。より努力を重ね、真の実力を身につけ、来年こそは出雲の地を走れるように頑張りたいと思います。また、それがチームの力につながり、来年の東北大学の全日本出場につながると思っております。最後になりましたが、現地まで応援に駆け付けた下さったOBの島田さん、柴田さんはじめ、応援、激励して下さった多くの皆様、本当にありがとうございました。また、今年は特例措置により、全日本大学駅伝に東北学連選抜として出場いたしますので、併せて、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

#第29回全日本女子大学駅伝対校選手権大会(10/23) 於 仙台市

杜の都仙台を舞台に開催されました。この大会は、昨年度上位6位までに入賞したシード校、各地区を勝ち抜いた代表校、東北学連選抜(オープン参加)を含めた26チームで争われます。

東北大学からは及川(3)、鈴木(1)が東北学連選抜として選ばれていました。また、一緒に練習している宮城大学の村松(2)も同様に選ばれていました。当日は及川が1区を、鈴木が2区を走ることにになりました。

出場選手からコメントをもらいました。

～全日本大学女子駅伝を終えて～

及川 まりや

昨年に引き続き、東北学連選抜として全日本大学女子駅伝に出場しました。今年は選抜チームの主将かつレースの流れを左右する1区ということで、正直、昨年よりも肩の荷は重いものがありました。けれども、チーム全体の意気が上がっていて、さらに2区の絢子と東北大リレーができるというのが本当に嬉しくて、前向きにレースに臨むことができた気がします。

結果は区間15位。まだまだ上位とは差がありますが、応援に背中を押してもらい、現時点での自分のベストを尽くして絢子に襷をつなぐことができました。また、学連選抜として史上初めて、多くの先輩が目標としてきた全区間リレーを達成できてとても嬉しいです。

このような大変な年に、これだけの大会をつくりあげてくれた学連のみなさんには頭が上がりませんし、補助員、応援を通して大会を盛り上げてくれたOB・OG含め部員のみなさんにも、感謝の気持ちでいっぱいです。その感謝の気持ちを走りでも表せるよう、今回の大会で自分なりに得たものを糧に、これからも頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

～全日本大学女子駅伝～

鈴木絢子

東北学連選抜チームの選手として、全日本大学女子駅伝の2区を走らせていただきました。大会当日は季節外れの暑さの中でのレースとなりましたが、沿道から聞こえるたくさんの応援が力になり、自分の実力を出し切る走りができたとと思います。本当にありがとうございました。

7月に行われた選手選考レースで選抜メンバーに選考されて以来、“正選手になって全女を走りたい”という気持ちと、“自分に走るだけの実力があるのか”という不安の2つの気持ちがありました。高校3年の県総体以来、自分の陸上競技生活には受験期間のブランクがありましたし、そもそも高校時代、大して結果を残せた選手ではありませんでした。

しかし、今年の選抜チームのメンバーは1年生が多かったので、自分だけではないと思いき、夏合宿や合同練習会では自分を追い込みました。練習をこなせるようになったことが自信になり、次第に“絶対に選手になる”という強い気持ちで走りこんでいる自分がいました。

興奮と緊張の中、大会当日を迎え、第一中継所でまりや先輩との東北大襷リレーが実現した時は、感無量でした。勢いに乗って前方の選手を追い、この順位を落とさないで3区につなごうと序盤から攻める走りをしましたが、最終的には15位でもらった襷を16位で3区につないでしまい、自分の区間で順位を1つ落とす結果となってしまいました。

区間順位は26チーム中17位と、自分としてはチームを大きく失速させる走りにはならなかったことに安心しましたが、タイム的にはもう少し縮めたかったという悔しさもあります。今後さらに練習を積み、自分の走力を高めていきたいと思っています。

駅伝が終わり、今まで自分を追い込んでくれていた原動力のようなものはなくなりましたが、このチームで経験し、学んだことは今後の練習に生かしていくつもりです。そして実力をつけた上で、来年また杜の都を走りたいと思っていますので、今後もしもご声援よろしくお願い致します。

～全日本大学女子駅伝～

村松 純

1年生の頃から目標にしていた東北学連選抜に、私は今年初めて入ることができました。実際に全女の舞台を走ることはできず補欠に回りましたが、選抜チームで行われた練習会などを通して大変貴重な経験を積むことができました。

当日は選手付添人として1区の及川まりやさん、2区の鈴木絢子のサポートをしました。2区で待つ仲間のために全力を出して襷を繋ぐ、1区の仲間の走りを無駄にしないよう自分も全力で次の区間に向けて走る。応援に行かれた方はそんな二人の東北大襷リレーにきっと感動されたことと思います。私はこの二人を全国の舞台上で間近に見ることができ、とても嬉しかったです。

今回の全女を通して、自分が全国の舞台上に立つにはまだまだだということ、目標を達成するために日々どんな努力をしていかなければいけないかなど、改めて考えさせられることが

たくさんありました。また同時に、私が今いる環境にとっても感謝しました。今年東北学連に選抜された選手の中には、部内で長距離女子は自分一人だけ、練習する場所が確保できないなど、厳しい状況で練習をしている人が数人いました。そんな中でこの大会を目標にし、走り続ける彼女たちにとっても刺激をもらいました。そして練習できるグラウンドもあり、共に走る仲間がいる自分をとっても幸せに思いました。

当たり前を当たり前だと思わず、色々なことに感謝してこれからも練習に励んでいきたいと思います。そして今回感じたことを部内に持ち帰り、皆で共有して上を目指していきたいと思いますので、今後とも応援よろしくをお願いします。

自己記録更新者一覧(6/12~10/22)

男子

・200m			
高林 佑輔(4)	22"56	(個人戦)	
鈴木 貴幸(M1)	23"12	(個人戦)	
・400m			
南 共哉(2)	50"59	(二十二大戦)	
・800m			
金子 修平(2)	1'57"71	(二十二大戦)	
・1500m			
藤澤 萌人(2)	4'01"59	(二十二大戦)	
山根 由経(2)	4'08"62	(二十二大戦)	
山本 悠平(2)	4'12"35	(二十二大戦)	
植木 達矢(2)	4'18"52	(二十二大戦)	
石代 剛之(3)	4'20"64	(二十二大戦)	
・5000m			
南 敦(3)	16'23"09	(北大戦)	
工藤 佑馬(4)	16'32"26	(北大戦)	
醍醐 賢輔(2)	16'38"60	(北大戦)	
山本 悠平(2)	15'24"78		(平成国際大学記録会)
宝田 拓馬(2)	17'31"85		(平成国際大学記録会)

・110mH

渋谷 知暉(3) 15"35 (北大戦)

・400mH

渋谷 知暉(3) 58"03 (北大戦)

・円盤投げ

柳澤 邦彦(3) 45m68 (二十二大戦)

・ハンマー投げ

八柳 暁(3) 31m23 (北大戦)

・十種競技

渋谷 知暉(3) 5622 (二十二大戦)

藤井 翼(3) 5520 (個人戦)

奥 裕之(2) 4282 (個人戦)

伊藤 亮輔(3) 4163 (個人戦)

女子

・200m

中山なつみ(2) 26"84 (個人戦)

・1500m

石井 花織(2) 5'37"71 (二十二大戦)

・5000m

小高 真衣(3) 19'38"65 (二十二大戦)

#秋季三秀総会のお知らせ

平成23年度秋季三秀総会を下記のように開催いたします。本来12月10日(土)の予定としていましたが、大会等の日程の都合によりまして12月17日(土)に変更となりました。皆様ご多忙の折りとは存じますが、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時 12月17日 17時～

場所 川内北キャンパスC200

#今後の予定

11月19日(土) 秋保マラソン・三秀会納会 於 秋保

同日 びわ湖大学駅伝 於 西浅井町役場～膳所城公園

12月17日(土) 秋季三秀総会 於 川内北キャンパス

#編集後記

はじめまして。今号からOB通信の作成を任されました保坂といたします。よろしくお願いいたします。

今年のOB戦では例年以上に多くのOBの方に参加していただき、非常に盛り上がりのある大会となりました。OBの方々とともに競技が出来ることは貴重な経験です。来年以降も多くの方に参加していただければ幸いです。

夏休みが終わり、第4セメスターを迎えて1カ月が経ちましたが、いまだに規則正しい生活リズムを取り戻せずにいます。間もなくシーズンも終了し鍛錬気に突入するので、いち早くリズムを正して練習を積み、来シーズンに備えたいと思っております。

それでは、今後ともよろしくお願いいたします。

文責 副務 保坂 佑斗